

令和6年(2024年)8月31日

株式会社斉藤建設 埋蔵文化財調査部

長谷小路周辺遺跡の発掘調査について

1 調査地点 神奈川県鎌倉市由比ガ浜3丁目258番2

2 調査目的 学びの多様化学校建設予定地埋蔵文化財発掘調査

3 基本層序

本地点の発掘調査で確認した堆積土層です。確認した堆積土層は、本地点周辺の発掘調査で確認した堆積土層とはほぼ同じです。

1層 表土・現代造成土。上面海拔レベル10.80m前後。

2層 小さな泥岩塊(土丹)、貝片他が混じる暗褐色砂質土(中世の堆積層)。
上面レベル10.30m前後。

3層 白～灰黄褐色砂層。海岸からの飛砂。上面レベル9.90m前後。

4層 黒色弱粘質砂層。(第1黒色土。)上面レベル9.70mから9.20m。
平安時代の終わり頃の砂丘後背湿地堆積層。

5層 茶褐色砂質土。細かい貝片を多く含む。上面レベル9.00前後。

6層 黒色弱粘質砂層。(第2黒色土。)上面レベルは8.00m前後。

8層 白茶褐色砂層。上面レベルは7.80m前後。

9層 黒色弱粘質砂層。(第3黒色土。)上面レベルは7.30m前後。

鎌倉時代以降の地層

奈良・平安時代時代の地層

4 発見した遺構

(1) 江戸時代

動物遺体埋葬 3基 その内、2基は犬の埋葬である。もう1基は未詳動物。

(2) 鎌倉時代から戦国時代

竪穴建物 1基

井戸 1基

土壙墓 2基 共に側臥屈葬で、1体は10代後半の女性(1号人骨)、もう1体は熟年の女性(2号人骨)との分析結果である。

(3) 奈良・平安時代

竪穴住居跡 2基 共に9層上面から掘り込まれている。1基は南東にカマドを持ち一辺300cmの方形で深さは20cm(2号住居跡)。もう1基は北にカマドを持ち長軸370cm、短軸270cmの長方形で、深さは25cmを測る(1号住居跡)。ともに時代は7世紀から8世紀頃と考えられる。

5 調査所見

本地点の発掘調査成果から、平安時代以前では、砂丘の後ろに湿地が広がっていて、最下層の9層から竪穴住居跡が2基見つかっています。平安時代の終わり頃には、その湿地が海岸からの飛砂で埋没し、鎌倉時代以降の生活面が作られています。鎌倉時代の遺構は、幕府が開かれてから50年ほどたったころのものと推測され、2基の土壙墓や井戸、物流に関わる倉庫と考えられている竪穴建物が発見されています。



鎌倉時代の土壙墓（1号人骨）出土状況



鎌倉時代の土壙墓（2号人骨）出土状況



奈良・平安時代の竪穴住居跡（2号住居跡）出土状況(上が北)



I-1区中世面調査完了時空撮（上が北）